

ことばの力  からだの力  こころの力

# 園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和元年7月1日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

## ようやく梅雨入り



G20 が無事に終わりましたね。皆さまのご協力に感謝いたします。

さて、ようやく梅雨入りですが、早くも七月に入りました。

夏休みを目前に、水遊びや七夕製作など、季節感をたっぷり味わいながら、元気に子どもたちと過ごす毎日です。



年長児になると、大きなプールへ行って専門のコーチに教えてもらっています。伸び盛りの子どもたちです。

## 毎日が個人懇談会

限られた時間でしたが、個人懇談会にご出席いただきましてありがとうございました。お子さんの幼稚園での様子をお伝えするとともに、ご家庭での姿などをお聞かせいただきながら、「共に育てるパートナー」としての関係を築いていけたらと思います。

「毎日が個人懇談会」のスタンスで、何かご不明なことや心配なことなどがありましたら、お気軽にお申し出ください。子どもを中心に、親も保育者も、そして幼稚園も育ていけたらと願っています。

どうぞよろしく願いいたします。



「幼児期こそ、感情体験を豊かに…」

子どもたちは幼稚園が大好きです。社会への第一歩をたくましく歩み始めています。幼稚園の魅力は何と言っても友達存在です。



入園当初は、まだまだ自分だけの世界にいる子どもたちですが、次第に、友達存在に目が向き始めます。やがて、側にいた友達の持っているものに興味を抱き、欲しくなって横取りする行為がよく見られるようになります。そんなとき、大人は、「だめ、人のものを取ったら！」と介入しがちです。

が、幼稚園では貴重な学びの機会と捉えます。取られた子は驚きとともに悲しみに泣き出すかもしれません。取り上げた子は泣かれて、その反応に驚きや戸惑いを覚えます。3歳児でよく見られる光景です。

楽しい、嬉しいと同様に、悔しい、悲しいと心が動かされるような感情体験は貴重で、幼児期にこそ存分に味わわせたいものです。

保育者は、まず、その様子を観察し、次に、どちらの気持ちにも共感しながら関わります。「取られて嫌だったね」「欲しかったのかな」と、それぞれの思いを十分に受け止めながら、相手の気持ちを代弁して伝えていきます。

幼児にとって、嬉しいときや悲しいとき、その気持ちに共感してくれる存在が、大きな心の支えとなり、その相手との温かな感情のやりとりを基に、自分も友達の喜びや悲しみに心が向くようになっていきます。3歳児は、相手の気持ちを察することはまだ難しい段階で、4歳児になると、ようやく自分とは違う、相手の気持ちも理解できるようになるといわれています。